

第2回 加西市スマートシティ推進会議 会議録

開催日時	令和6年10月28日（火）午後2時00分～4時10分
開催場所	加西市役所 5階大会議室

出席委員の氏名			
岡田 美佳	木南 晴太	高井 淳匡	田畑 豊史
東根 光児	西尾 信彦(会長)	西村 雅吉	藤中 亮太
蓬萊 眞子	水田 善久	宮本 博文	

出席した事務局職員の氏名及びその職名	
深江 克尚	加西市 政策部長
大賀 暁	加西市 C I O 補佐官
山岡 和宏	加西市 政策部情報課 課長
伊藤 陽子	加西市 政策部情報課 主幹
馬渡 隆行	加西市 政策部情報課 係長
小山 映	加西市 政策部政策課 まちづくり推進員
(事務局補助) 株式会社電通西日本、株式会社電通総研	

会議概要
1 議事 (1) 加西市の抱える課題整理 (2) 加西市に相応しい展開方向 (3) 意見交換 2 資料 会議次第、委員名簿、資料 3 会議の経過 別紙「第2回加西市スマートシティ推進会議の経過」のとおり

発 言 者	会 議 の 経 過 / 発 言 内 容
会長	1 挨拶 <会長あいさつ> 第1回加西市スマートシティ推進会議は、キックオフとして会議の目的、検討内容・スケジュール、会議の公開ルールの確認などだったが、第2回推進会議では、加西市の現状とそれに対しての委員の方々の思いの共有を図っていきたいのでよろしくお願いします。
事務局	2 前回欠席委員の紹介 前回欠席された委員、今回交代された委員を紹介。
事務局	3 議事 (1) 加西市の抱える課題整理 「第2回 加西市スマートシティ推進会議」の資料の前半説明
会長	加西市が抱える課題整理の報告があったが、委員の中から質問はありますか。
委員	Well-Being 指標のレーダーチャートの調査対象は誰なのか？
事務局	加西市の公式 LINE の3千数百人を対象に行い、LINE 利用者は50歳代以上が多いことから、50代以上が回答の中心と思われる。 初等・中等教育の指標が低いのは、後期中等教育である高校の選択肢の狭さが原因と考えられる。
委員	健康状態について、主観指標では高いが、客観指標は低いとなる理由を知りたい。このレーダーチャートを指標として使うのであれば、これらデータをもっと深掘してもよいのではないかと感じた。
事務局	レーダーチャートは参考程度に見てもらえればと考えている。
委員	分野別の課題については総合計画に記載されているものか。
事務局	総合計画を参考に作成したものであるが、現状の事務局の課題と捉える認識に近いものである。
事務局	Well-Being 指標は、国が利用を促している調査方法のひとつで、作成したのは京都大学と慶應義塾大学の心理学分野の学者がデザインをしており、結果の解釈については自由といわれている。また、1000人というサンプル数で、若年層が含まれていないデータであるため、これに振り回されるとミスリードする可能性があるということを前提に考えていただきたい。
委員	人口構造について加東市との比較を出しているが、加西市は加東市をベンチマークに置いていると考えてよいのか。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
事務局	加東市が目指すベンチマークというものではなく、隣の市の状況と比べた特徴比較と見てほしい。ただし、加東市は団塊世代よりも団塊ジュニアの方が多いというところに特徴があり、その理由としては2000年あたりから若年層の流入が多かったと捉えている。逆に加西市は0～10歳までが先細りであることから若年層の取り込みがうまくいかなかったと考えているが、できる限り加西市も加東市のような人口構成に改善していく必要があると認識している。
委員	加東市と比べ加西市は20～39歳の女性の転出が多く、5つの無料化が好影響を及ぼすということに矛盾を感じる。2020年から2023年で少し改善が進んでいるという理解でよいのか。
事務局	ご指摘のような2023年度の加西市の社会増減については、兵庫県下で上位9位となり、5つの無料化などにより20～39歳女性に向けての取り組みは数字の面でも効果が出てきている。
委員	年代ごとの増減がわかるような資料を共有してもらいたい。
事務局	了解。
会長	改善しなければいけなかった理由は加東市と比べどの辺りにあるのか。不満が多いところが流出の理由だったと捉えて、改善に取り組んでいるのか。
事務局	地理的条件、大学の立地、幹線道路、鉄道、住宅供給量事情など加東市は加西市に比べ優位な部分がある。 加西市は市街地調整区域が多い関係で家を建てにくく、空き家についても農家住宅であるため、一般の人が来てもすぐには住めず法的にかなり制約があるが、2年後に市街地調整区域の廃止も見えてきているため、行政としては改善を図っているところである。
委員	子育て世代のお客様と話をしていると、加東市は加西市と比較して住宅費が安いという声を直接聞くことがある。
事務局	住宅を建てるのと同様、アパートを建てるにしても土地が割高になっている部分がある。新婚世帯向けの家賃補助など結婚後の定住を促す取組は行ってきたが、他地域も同様の施策を行なっているため、飛び抜けた施策にはなっていない面がある。
委員	行政的な立場から加東市の団塊ジュニア世代の取り組みがうまくいった施策などを教えてほしい。
事務局	加東市は周りの自治体が色々やるとその施策について知っている状態で、必ずしも先頭を走っているわけではないが、人口的には地理的条件や大学など地の利があると考えている。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
	また、賃貸の供給が潤沢にあり市場競争が働き価格が安くなる、人口のダム効果が働いて北から南に人が動く受け皿となっているとも考えている。加西市の住宅が高い理由として三洋電機時代の借り上げ社宅制度の名残から高い水準で残っているという影響もある。
委員	加西市はありがたいことに農業も住宅も補助金の手厚い。5つの無償化についても明石市よりも良いにも関わらず、それを知らない人が多い。自ら情報を市役所に聞きに行かなければ教えてもらえない状況であり、加西市から積極的な情報発信がないと感じる。住宅補助などについても同様にPR不足で、もっと積極的にPRをすべきと考える。
事務局	移住者向け説明会などでは説明しているが、一般説明会では農業系の補助金のお話を多くの時間をとってというのは難しいところがある。5つの無料化については予算を付けて積極的にPRをしているが、多くの部署と総合的に連携しながら、さらに行わなければいけないと考えている。施策をつくるだけでなく、知ってもらえていないということを認識する必要があると受け止めている。
会長	今までの話は後半でより具体的に議論いただければと思われ、いったん今は抱えている課題を明らかにすることが目標となる。総合計画の中では、挙がってきた問題に対してどの内容が当てはまると考えているか。
事務局	P6、7の課題については総合計画をベースにしているが、ミライナカ計画の中で分類し全ての領域に対して課題提示させていただいている。
委員	ビジョンとなる目指す姿がないと、理想と現実のギャップ・課題が見えてこないと思う。加東市のように人口を増やそうとしているのか、何を前提にしているのか。
事務局	人口だけにフォーカスするのは本会議のメインの主題ではないので、今の住民のWell-Being、生活満足度を高めるということが主題になると考えている。
委員	Well-Being 指標がとても大事だと思うが、指標は参考といわれるとどこから議論すべきかわからなくなる。
事務局	第1回推進会議の中で出た議論や、会議に参加されている方がやってみたいと考えていることを共有して議論を進めていただきたいと考えている。例えば委員が前回発言されたように専門職が少なく、マンパワーに頼るのはもう限界で、デジタルでどのように対応すべきかを考えるべきといった点である。 委員が語られているように全員が同じパターンで、無理やり教室で学ぶということではなく、小中学校の教育の姿など人それぞれの教育をど

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
	う実現できるのかなど、もう少し踏み込んで議論をしていただきたいと思っている。
委員	P6、7 に示されている対応の方向性は事務局案ということでよいのか。
事務局	現状の事務局の方向として示している。
委員	示されている 10 の分野の知見を持った方々が推進会議に参加していると認識しているが、P6、7 で示されている課題と対応について現場としてみたときに齟齬がないのかの確認は必要だと考える。 教育について自分の中では少し違うと感じており、教育であれば「新しい時代に対応した人材の育成」という課題に対し「加西 STEAM の推進」は対になっているが、「学校の選択肢の少なさや通学の不便さ」という課題に対して「学校や通学の整備」という対応については、加西市民の意識調査にある「暮らしている地域では教育環境が整っている。通学しやすい場所に学校がある」というアンケートと齟齬があるように思っている。選択肢の少なさとは学校が選べるのではなく教育内容の選択肢の少なさを指しているように感じられ、多様な教育を受けられる選択が加西市にはないと理解している。
事務局	課題と対応が一对のものになっているが、記載内容のみで正解を示している書き方ではないと理解いただきたい。
委員	3 人の子供がおり、小学校に 50 分かけて通学しているが、小野市では暑い時期ではバスに乗れるようにしており、また、進学について近場では北条高校と農業高校という選択の少なさについてママ同士で話になる。通学で市外となると、加西市は住みにくいと感じる。
事務局	暑い時の通学バスは来年度から対応予定となっている。
委員	現在三木に住んでいるが、小学校に上がる子供のことを考えると教育水準はどうなのかという悩みがある。学校との物理的な距離よりも、どういう教育を受けられるのかということが知りたい。移住者の感覚だと、自然に触れられるというところは気に入っているが、遠隔授業などデジタルを活用した質の高い教育が受けられるならとても良いと思う。現状ではその情報の入手手段がないと感じるため、加西市はもっとオープンでわかりやすくしていただきたいと考える。リアルの自然に、デジタルの力が加わるとよいと思う。
事務局	加西市は STEAM 教育の中でかなり進んでいると自負している。
委員	移住者が移住する際に最も重要視する点は、教育環境への不安であり、わかりやすく情報が伝えられれば良いということで、教育の質につ

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
	いてということではない。教育のイメージを高いものとするのが大切なことである。
事務局	農業補助金の事例と同様の話で、PR 不足と認識している。
委員	加西市ホームページの定住ページを確認すると、起業の PR はあるが、教育の PR は存在しない。移住者は通勤通学の方法を調べて考えている。その後に候補とする自治体のホームページを確認することになる。つまり、いくら加西市ホームページを充実させてもそこに辿り着く前に移住先を決められると思われる。住む場所を決める条件や情報入手の順番を把握し、適正な手法で情報発信するなど WEB マーケティングが必要になる。
事務局	PR に関してのご提案に感謝申し上げます。
委員	実態調査について転出者に直接聞いたことはあるのか、また意見聞いても「なんとなく」答える人が多いのではないかと思う。転出者のイメージと実態の認識の乖離があるのではないかと感じている。家賃は安くなっていると思う。
事務局	毎月、転出入世帯のアンケートをしており、移動の理由 1 位は仕事、2 位結婚（離婚も含め）となっている。転入であれば 5 つの無料化が要因にもなっていて、転出者からは「機会があればまた加西市に住みたい」という意見が出ており、一定の評価は得ていると思っている。 数回の転居の経験からは、アンケートにまともに答えられているか疑問に思われる点がある。より深いインタビューを行わないと意味がないと思われ、現状だけでなく、5 年 10 年後を見据えてどうなのかということを考えるのがスマートシティであり、そこに向けて何を考えなければいけないのかというところに議論を集中させたい。介護・福祉など含め 2030 年について、是非、委員のお考えを聞いてみたい。
委員	10 年 20 年後に介護施設に入れるだろうとか思っているかもしれないが、そんなに簡単には入れない時代になる。今でもスタッフがいないが 10 年後にはもっと厳しくいなくなる。健幸アプリなどで、加西市も健康寿命について力を入れているが大事なポイントである。 ただし、元気でも緊急対応が必要になることもあり、独居老人もいるため、デジタルを活用して離れて暮らす親族にすぐに連絡が取れるなどの対策に取り組む必要がある。特別養護老人ホームは働き手の人数によって入居者数が制限されている。人口を増やすのも大事だが、労働力を確保することを考えることの方が重要だと考えている。今まで加西市のために人生を尽くして来られた方々が幸せに暮らしていける環境を創っ

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
	てほしいと思うし、団塊ジュニアの方々が加西市に住みたいと思って帰ってきてもらえるとよいと思う。そのための対策を考えてもらいたい。
委員	人口減少することが前提となっているが、子供をどう増やしていくかという自然増の議論も必要だと思う。10年後、20年後考えると子供が3人いても夫婦2人の生活となると想像される。介護でロボットなどITがあっても、人がいなければそれを使うことはできない。加西市だけでなく広域で考えられないかと思う。
委員	人材がいなのは農業も同様だが、問題は給与が少ないから担い手が集まらないだけだと思われ、課題は明確である。きつくて担い手がいらないからロボットを使いながら給与を上げるしくみを創ればよいと考える。給与原資をどこから作るかという問題はあるが簡単な問題だと思っている。
事務局	農業は委員のようにセンスがあればなんとかなると思うが、介護については国の基準で単価も決まっているため、簡単ではないと考えている。広域での取り組みについては国や県なりが、加西市がやっているような5つの無料化のうちいくらかでもやっていければよいと思っている。
会長	内容が議事(2)に進んでいるため、事務局から資料説明の後、仕切り直した上で進めることとする。
事務局	(2) 加西市に相応しい展開方向 「第2回 加西市スマートシティ推進会議」の資料の後半説明
会長	他地域の事例がそのまま加西市に当てはまるとは思わないが、これらも参考にしつつ、顕在化した加西市の課題を地域 DX で何ができるかという各委員の専門性に合わせて議論を深めたい。 また、デジタル化フェアは予定されているが、先の議論で Web を充実しても農業や介護の人口増につながらないという意見もあった。そこで Web のターゲティングがどの程度効くのかを考えた設計が必要。また、ここ数年の実現性だけでなく、ロボットの活用なども含めて各人思うところを議論いただきたい。
委員	東京にあるフードデリバリーやクイックコマースのような物を買ってデリバリーしてくれる次世代型コンビニという考え方のサービスが加西市にないことに不便を感じている。祖母の家にあるタブレットにそのようなサービスがインストールされているとよいと思う。トイレットペーパーも買いに行けない住みづらはさこういうところにあると考えてい

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
	る。行政としてではなく、一つの会社として代行して稼げるようなサービス普及のアプローチを考えている。
会長	コンビニ自体がやろうとしているものもある。
委員	やろうとしているものは副業的なイメージになると考えている。
委員	農業人口増のための取り組みとして、10ヘクタールの農場とトラクター1台、年間10日の稼働で年収1400万稼げる（手取り600万円～700万円ほど）ことの実現に挑戦している。加西市がそのような取組をPRしてくれれば人が来てくれると思っている。事実、神河町からもそのような農業ができるということで夫婦が来てくれている。 農業大学の学生に話を聞くと「儲からない」「休みがない」「重たいものを持たないといけない」という言葉が出ており、固定概念化している考え方（儲からない、暑い、汚れるなど）を払拭し、農業の悪い部分の逆をすることができれば農業に人は集まると考えている。
委員	自動運転の農業用機械があるが、これは実用化されているのか。
委員	玉野は農業機械メーカーの実験圃場になっていて自動で刈り取りをしているが、高すぎて購入できない。そのため、今は農機具を持たない時代で、持たない方が勝つ時代と言える。田植え機を使うのではなく、ドローンで種（稲）を空から播くといった具合。種播きや肥料を撒くところまで、事業者が農作業を委託している。肥料の必要なタイミングなども含めデータ化しており、刈り取りタイミング、除草剤の散布も自動。水管理もスマホやPCで行うなど今の農業は24時間デジタルを活用して稼働している。この様な農業を行政がPRしてくれば、若年層の苦手意識が解消されると考えている。 また、水を張らず田んぼをすかない、雨だけで育つ稲も開発している。加西市は脱炭素先行地域ということもあり、ヨーロッパで嫌われているメタンガスが出る水田（牛のゲップより水田の方がメタンガスを出す）をやめるための挑戦をしている。 国からも水田をやめることでJクレジット制度を利用して、クレジット発行と企業への販売を進めている。このあたりも含めると農家というのはまだまだ伸びしろのある産業であると考えている。
会長	農業大学で話をすれば盛り上がりと考えられるが、より広げるために、どこをターゲットにすればよいと思われるか？
委員	農業大学と県、市が動けばよいと思う。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
委員	就農、起業について、兼業をやれという流れがある中、専業をやれというのは世の流れと逆行していると考えられる。初めから兼業をやってほしいという施策を市は打てばよいと思う。 委員の話は興味深く、DX とは価値観を転換していくということだと捉えた。田んぼでどの位コメが取れるかということだったのが、人がどう効率よく付加価値を生み出していくかだと考えられる。ツールとなるDX 導入によりずれていく価値観を見極める必要があると思う。 福祉の場合だと人がいないのであれば、そこにいる人がどのように効率を最大化していくのか考えないといけないだろう。
委員	今のような議論を一つ一つ考えていく場が、今後設置されていくワーキンググループだと思っている。全体的な話よりも、優先的に取り組むべき課題を2～4 に絞って議論を走らせていくことが大事だと考える。
会長	副業的に人を確保していくのが現代的で大事と思われる。農業が副業的にやれると思っていた。
委員	農地は不動産の購入と同じように、土地を持つことで収益になるようにしたい。農業は委託ですべて作業をするので、不動産投資のようなマンションの管理人のようにしたいと思っている。マンションの場合は負債を持つことになるが、農地にはそれがない。ネックは農地法ではなく「お年寄り」。若い人たちがいても、お年寄りが土地を手放さないのが問題。加西市だけでなく、全国的な問題と思う。 休耕地を活かすにしても5年、10年続けていくことはできないということがわかっているので、あぐり〜ど玉野に委託してくる。
会長	お年寄りの問題は成功例を見せても拒否感があるということなのか。
委員	拒否反応の問題で、田植えには田植え機が必要と考えている。昔は手で植えていたが、今は田植え機を使っているように、転換点にいる。若い時は転換できても、年を取ると固定概念が強すぎて転換ができない。
委員	農家は儲かるかというより健康のためにやっているように見える。金融の世界でも固定概念が強すぎて金融商品の取引をやらないという人も一定数いる。丁寧に説明して何回も面談を続けるということが必要だと思う。
委員	委員の話は加西市に限らず全国的な規模での話だと感じる。
委員	2040年にはコメが足りなくなると言われている。高齢化問題で農地が一気に宙に浮く時が来ることも考えられる。農地を一度荒らしてしまおうとイノシシとシカの住むところになってしまい、そんなところに人は住みたいと思わなくなる。農地が廃れて山に帰るということはイノシ

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
	シヤシカの住むところになり、他を DX しても本当に人が住みたい街にはならないと思われるが、そういう未来が見えている。
会長	加西市だけでなく全国的な問題であれば、県と共同で取り組んでいく方法はあると思う。
委員	商工会議所で創業塾を開催しているが、一度事業を始めると起業に専念することを先生から伝えている。創業に関しての補助支援の要件には週 5 日以上営業があったりする。起業も 2 つをかけ持つという時代になってきたのだと思う。
委員	投資の少ないコミュニティービジネス、マイクロビジネスといった働き方だと創業スクールや創業資金を借りるといったことでもなくなると思う。また人件費ではなく経費で支出する生活感を進めていたことがあるが、そのような、地域の中でよりお金を動かす仕組みの中にねっぴ〜 Pay などを活かすというのは良いと思う。
委員	なぜ一日 8 時間という縛りになっているのか？稼げるのであれば一日 4 時間働くだけで良いと考える。
委員	p.17 デジタル化フェアについて加西市情報課と議論を重ねるなかで主催について相談があった。商工会議所としては IT ツールの紹介などは都市部の大きなベンダーが中心になっていくことを想定し、会員企業に対しての IT ツールのニーズの把握、導入後のフォローアップを考えている。
会長	推進会議がデジタル化フェアを主催することを決めておきたいと思う。 デジタル化フェアはオフィスワークの支援ツールの紹介をするという理解でよいのか。
事務局	バックオフィスの効率化促進の IT ツールベンダーは東京の企業が多いが、大都市圏の企業への提供が落ち着きつつあり、今後は地方への展開を提案する中で出展を呼び掛けている。製造業を中心に共通するバックヤードの業務改善であれば多くの企業に興味を持ってもらえるのではないかと考えている。 展示ブースやミニ講演会などを行い、目の前で見て触って、使ってもらえる環境を提供し、一歩でも前に進んでもらう企業を増やし、DX の底上げをフェアで実現したい。
会長	集客を見込めるのであればやった方が良く考える。
事務局	加西市の企業を中心に集客をするが、賑わいをつくる意味合いもあり、市外からも来るもの拒まずに開催したい。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
委員	やっただらいいと思うが、当社は IT 企業として製造業は視野に入っている。たとえば年商 100 億円を超える企業と経営者が現場に関与している企業ではニーズが異なると思われ、ターゲットはどこを狙っているのか？業種や対象層などイメージがあれば教えてほしい。
事務局	現場の人の参加も勿論 OK だが、意思決定者に参加してもらいたいと思っている。企業規模は年間売上 100 億円なら既に RPA 導入などもされていると思われ、別に参加しなくても大丈夫。 ターゲットとしては従業員数 10 人、20 人程度くらいでエクセルは使ったことがあるくらいのレベル感の企業がメイン。ノーコードツールや RPA もわからないレベルの事業者でも興味を持ってもらえるようなフェアにしたい。
委員	商工会議所がセミナーなどをやっていて、加西市の各事業者は IT ツールをすでに導入されているのではないかと感じる。推進会議でスマートシティの話をしているのに、突然見本市みたいになるのは少し違うような気がする。推進会議では事業の DX の生の声が聞こえることを望んでいる。
事務局	ご指摘のとおりだと思う。国内ではすでに 200 くらいの自治体がスマートシティを推進しているが、殆どうまくいっていないように思われる。なぜならば、それを推進する事業者はほぼ東京の会社であるためだと考えている。売上高 1 兆円を超えるような企業がやって来て、実証が終われば去っていき、地元の人はやっていたことすら気が付ないことが多い。そこで、地元企業が DX に興味を持ってもらう中でスマートシティを推進することが重要であり、1 社でも多く DX に興味を持つことが必要となる。データ連携基盤への接続をやりたいという地元企業が現れ始めたら本物のスマートシティになると考えている。そのため、まずは入口をつくるということをする必要がある。
会長	次年度に協議会が立ち上がり、いくつかのワーキンググループが動くのが理想であり、農業・介護などが動いていくと想像する。その前提としてデジタルデバイドを越えていく基盤として今回のフェアがあるという建付けは良いと思う。
委員	当社はそれなりに社内の IT 化は内製化して進んでいるため、自分たちで解決はできているが、これは加西市では特殊な方だと考えている。会社の規模関係なく多少の違いはあっても基本機能は変わらないため、困っている企業は加西市の中にたくさんある。フェアでの情報発信は参考になると思われる。

発 言 者	会 議 の 経 過 ／ 発 言 内 容
委員	これまで点で効果は出ていたが、現在はコスト的に難しかった社内の基幹システムを集約して面で使えるものにしようとしているところである。工場の現場で DX をやらないといけないことはわかっているが導入コストが合わないなどがある。コストに合わせて導入を進めると次のムーブメントが起きていることもある。そのような動きを見て周りの会社からの相談が来るが、何をやったらいいかわからないと思っている企業も多く、フェアでその入り口を広げられるとよいと考える。 また、高齢化が進んでいるので、属人的なところがなくなるようにしないといけないが、標準化できるようになれば次の世代に渡せると考えている。
事務局	2 月開催のフェアについては加西市の産業課、情報課が受け持つ予定としている。次回の推進会議で進捗の報告をするようにする。
会長	様々な議論の中で農業の話は他にも広がりがあると思われ、深掘りできなかった介護や教育の取組も引き続きやっていかなければいけないと考えている。 本日の会議で課題が顕在化したことはよかったと思う。
事務局	4 その他 次回は 12 月 9 日 14：00 から加西市役所で開催する。
CIO 補佐官	閉会 <加西市 C I O 補佐官あいさつ> 今日の議論では、持たざる農業から、持たざる経営、持たざる役所といった価値観が変わるような想像ができる面白い話を伺うことができ、厚く感謝申し上げる。 フェアについても情報提供を含め是非広げていただくことにご協力をよろしくお願いします。